



リンゴの花(ピンクレディ®)

農業委員会だより



巨郷：(有) 安曇野ファミリー農産ほ場にて
リンゴの花摘み作業 (R4、5、2撮影)

● 主な内容 ●

- ・ 農業功労者表彰…………… 2～3
- ・ がんばる農業者…………… 4～5
- ・ 農家の皆さんへの注意喚起…………… 6～7
- ・ 私のおすすめ…………… 8
- ・ 旬の一句・一首…………… 8

発行日／令和4年7月20日(水)

編集と発行／安曇野市農業委員会

安曇野市豊科 6000 番地

tel 0263(71)2497

農業委員会事務局ホームページアドレス

<http://www.city.azumino.nagano.jp/soshiki/49/>

申請書、届出書のダウンロードができます。

地域農業振興等功労者表彰

(有)三澤農場 取締役三澤伸幸さん(43歳) 安曇野市三郷野沢



この度は、松塩筑安曇農業委員会協議会において「地域農業振興等功労者」表彰を頂き御礼申し上げます。

三澤農場は父の三澤豊生が50年前に1頭の豚を飼い始めたところから始まりました。有限会社として、昭和60年4月に設立し、今年で37年を迎えております。現在では約2500頭の豚を飼育し、年間4300頭の豚を出荷するに至っております。

農場で生まれた子豚たちは敷料に安曇野のお米農家さんからいただいた籾殻と信州産の木材から出るオガクズを利用したバイオベッドの上を走り回り元気に育ちます。また、日々排出される豚のウンチから堆肥が作られ、近隣のリンゴ農家さんや野菜農家さんの畑で活用していただいております。

出荷された豚は長野県産豚肉として、一部は信州オレイン豚として精肉店、飲食店へ、「時代遅れの洋食屋おきな堂」さんでは三澤豚として店舗のメニューや通販商品に使用していただいております。

昨年は南安曇農業高校の方々と協力して安曇野産ソバの甘皮を飼料に育てた「信州安曇野SOBA豚」でのレトルトカレー製品化に携わらせていただきました。おいしい豚肉で食卓に笑顔が届けられるように、すくすく元気な豚を育て命を伝えていくことを大事に、養豚を通して豚肉と堆肥が地域資源を循環させる一つの役割となるよう、地域農業に貢献する農場とされるよう努力していきたいと思っております。



バイオベッドで寝転ぶ豚たち



南農生の農場視察



地域のリンゴ農家で活用される堆肥製造

中堀共同育苗組合（堀金烏川）

（半世紀以上の地域貢献を評価されました）



受賞を喜ぶ坪田繁秋組合長（右）

当時は、シーダー苗の生産と田植え作業を担っていました。

2条田植機を5台購入し6〜7年使いましたが、その後乗用の田植え機に代わっていききました。

育苗作業は、土を振って芽出し種を播き育生しました。ピーク時では16000枚

中堀共同育苗組合

昭和45年度の国の補助事業で育苗作業場や加温設備、歩行用田植え機などを整備した。当初、中堀集落の受益戸数は75戸で61畝

を生産しましたが、時代が進み、減反施策等により減少傾向に。

令和4年度は4560枚でした。

現在は、この場所で育苗作業をしたあと、中堀集落内に3戸ある農家のハウスをお借りして田植えまでの管理を任せています。

半世紀以上の取り組みで、課題はいくらでもありますが、特に組合員の高齢化と施設・設備の老朽化が長年の課題です。

屋根から雨漏りしていても、組合員が自ら修理をするなどして経費を抑えてきております。

ただ、中堀集落の水稲生産の一助として受益者や地域のためになればとの思いで続けることができずきました。このほど「地域農業振興に貢献した」との評価を頂き表彰されたことは、会員一同、続けていて良かったと誠に感謝しております。

組合長 坪田 繁秋

副組合長 遠藤 朝雄

副組合長 大谷 高



育成室



育苗温度調整室

がんばる農業者

塚田 高裕さん (55歳) (堀金烏川)

経営面積等

水稲6畝・大豆1畝・施設園芸40a

奥さんとお母さんとの3人で複合経営



R4.5.2 撮影

Q 農業を始めることになったきっかけは何ですか？

A 父が花の生産農家だったため農業には興味がありました。高校を卒業して県の松代農業試験場学生として在籍中カリフォルニアへ国際農友会を通じ花の学習に行ったことがきっかけです。

留学は1年間。USフラワーという企業で切り花の生産をしながら販売に携わりました。

帰国後、ハマ園芸で社員として入社し、園芸全般の仕事につきました。

Q 現在の主力品目は何ですか？

A 今の主力は「トルコギキョウ」「ひまわり」です。全農長野が苗の供給をしているので、「物日」に合わせ栽培しています。例えば父の日の「ひまわり」など。

Q 今後の目標などあればお聞かせください。

A 家族(6人)が暮らせていければ良いと考えています。規模拡大などは考えていないので現状を維持していくことが目標です。



トルコギキョウ (ハウス栽培)



ニンジン (ハウス栽培)

地域オリジナル水稲肥料「有明パディー」を手にする荒芝さん



がんばる農業者

荒芝 裕一さん (56歳) (穂高有明)

経営面積等22ヘクタール

水稲15ヘクタール (内採種圃場4ヘクタール)

そば7ヘクタール

Q 就農されたきっかけは？

A 父（現在83歳）が農家に生まれ、特に水稲種子栽培（現在4畝）に力を注ぎ、松本平の水稲品質維持に努めていました。

私は、学業を終えた後、システムエンジニアとしてマーケティング業界（首都圏）に入り、パソコンや情報処理などに携わっていました。そんな中、小さい頃から見えていた父の姿や生家の周りの景色などを思い、20年間務めた会社を辞め、46歳から家族と共に帰郷して、父親の農業を引き継ぎました。

Q 今、取り組んでいることはありますか？

A 有明の土壌に適したオリジナル肥料（水稲用）を成分設計し地元農家さんに提供しています。

有明地域内の50箇所から採取した土壌を分析し、長年培ってきた父の経験ノウハウから、倒伏しづらく収穫量が多い米づくりを目指しています。

現在は、地域内の65戸の農家の皆さんから約1800袋（面積約70畝）を使って頂き高評価をいただいています。

Q 今後の目標はありますか？

A 地域全体での米の品質向上と栽培基準の統一ができれば、「有明米」としてのブランド化も夢ではないと考えています。



今シーズン最後となる田植作業（5月28日撮影）



乗用型8条植えの田植機に苗を補充する荒芝さん

熱中症への対策を

夏の農作業で心がけること

1. 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行いましょう

- ☀️特に 70 歳以上の方はのどの渇きや気温の上昇を感じづらくなるので高温時の作業は避けましょう。

2. 作業前・作業中の水分補給、こまめな休憩をとりましょう

- ☀️のどが渇いていなくても 20 分おき休憩し、毎回コップ 1 ～ 3 杯以上を目安に水分を補給しましょう。
- ☀️足がつったり筋肉がピクピクする症状がみられたら、0.1 ～ 0.2%程度の食塩水（1ℓの水に 1 ～ 2gの食塩）、スポーツ飲料、塩分補給用のタブレットを摂取しましょう。
※市販品を摂取する際は、必ず成分表示をチェックし、適切な量を摂取してください。
- ☀️休憩時は、日陰等の涼しい場所で休憩し、作業着を脱ぎ、手足を露出して体温を下げましょう。



3. 熱中症予防グッズを活用しましょう

- ☀️屋外では帽子、吸汗速乾性素材の衣服、屋内では送風機やスポットクーラーなどを活用しましょう。

4. 単独作業を避けましょう

- ☀️作業は 2 人以上で行うか、時間を決めて水分・塩分補給の声かけを行うなど、定期的に異常がないか確認し合うようにしましょう。

5. 高温多湿の環境を避けましょう

- ☀️暑さ指数（WBGT）計、温度計、湿度計で、作業環境を確認しましょう。
- ☀️作業場所には、日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するようにしましょう。
- ☀️特にビニールハウス等の施設内は風通しが悪く、早い時期、早い時間から暑さ指数（WBGT）が高くなるため、断熱材を活用しましょう。

秋の農繁期を控え、トラクター等の大事な農業機械や工具、丹精込めて作られた農作物の盗難、農地へのいたずらが全国各地で起きています。不審者や不審車両を見かけたときは警察に通報または連絡をお願いします。地域で犯罪から機械や農作物を守りましょう！

もしもの時は110番もしくは☎0263-72-0110（安曇野警察署）へ

トラクター等農業機械の 盗難が多発しています！

県内でトラクター等農業機械の盗難被害が相次いでいます。盗難防止対策を徹底し、盗難被害を防ぎましょう。

トラクター等を**倉庫**にしまおう

盗難の多くは**田んぼや畑**で発生しています。ほ場にトラクター等を放置せず、鍵が掛かる倉庫にしまいましょう。



放置して帰らないで！

トラクター等に**鍵**をかけよう

盗まれているものの多くは**施錠**されていませんでした。トラクター等を離れる際は必ず施錠しましょう。



作業員やトラクターに**目印**をつけよう

侵入者を見分けるためにも、作業員は**腕章**等、トラクター等にはステッカー等の目印を付けましょう。



私のおすすめ

いご

明科 遠藤 昭子さん

お祭・お盆・お正月などにも作る行事食です。

【材料】
いご草50g・水1ℓ
酢 大さじ1

【作り方】

- ① いご草を水に少し浸し、日差し強い日にゴミを拾いながら広げて干す。2〜3回繰り返すと、白さが増えてくる。
- ② ①のいご草を洗って水分を切り、鍋に分量の水を入れて火にかけ、沸騰したら弱める。
- ③ 酢を入れ、木べらでかき混ぜながら粘りが出るまでよく練る。
- ④ すっきり溶けたら容器に流し入れ、冷やして固める。



《食べ方》わさび・しょうが・からし醤油・削り節などで。

旬の一句・一首

紫陽花や

時の移ろひ
身に受けて

有明 媪

歌友は

農の先輩助詞よりも
豆の追肥を的確に言ふ

堀金小田多井 一志みゆき

諍ひの

無き処へと

蟻の列

三郷 有馬 恭子

田植え前の

水田に映つる

アルプスは

逆しまになり

小波にゆるる

明科上押野 大石 和子

新涼や

母と揃いの

日和下駄

豊科 古幡 菊子

編集後記

だいぶ以前から日本の食糧自給率の低下が問題視されています。加えて現在のロシアによるウクライナへの軍事侵攻が世界の食糧危機に、より大きな影響を与えています。この2カ国が世界の穀物生産に占める割合が30%にも及んでいるからです。日本の場合この両国からの輸入は多くはありませんが、世界的に食糧の余剰がないため、これからは日本も世界の食糧調達の嵐の中に投げ込まざるを得ないでしょう。

世界の中の日本の食糧事情を考えると、国内の農業生産、自給率向上が以前にも増して重要になっていと言えます。現在のように不安定な国際情勢のもとでは、食料生産を他の国に依存するという国際分業の考え方は非常に危険です。平時の円滑な国際貿易ができる時のことを考えるだけでなく、今のような不測の事態が起きたときの備えをしていくことは重要です。国際紛争は人災ですが、備蓄は自然災害への備えと同じだと思います。

世界の動きは「他人事」ではなく、「コナ禍」が教えているように、世界は緊密に繋がっていて地球上のどこかで起きたことも、瞬く間に全世界に大きな影響を与える可能性があります。この安曇野という世界の片隅で起きていることさえ、世界の大きな流れからは決して自由ではないのです。

もちろん、食糧自給率の向上や農業・農村問題のように大きな課題が、一朝一夕に解決できるとは思えません。でも私たちの身の周りの農業を巡る問題を、何もせず成り行きに任せて良いはずはなく、狭い範囲でのわずかなことだとしても、将来世代のための努力はすべきだと思います。

文責 請地 康仁

【農業委員会より編集委員会】

編集委員長 笠原 哲雄

委員 岡山きみ子 委員 中村 洋子

〃 田口 博之 〃 丸山 隆也

〃 山田 太一 〃 請地 康仁

〃 藤原 光弘